

air signs ～多文化環境における芸術的接点の創造～

SUCHSIZE

■活動内容

SUCHSIZE（サッチサイズ）では、西成区の急速に変化する多文化環境に芸術的接点をもたらすことを目的に、毎年、外国人居住者の国を一カ国選定し、その国のアーティストを西成に招聘して展覧会や関連イベントを開催しています。

近年拡大しているベトナムコミュニティに焦点を当て、ベトナム人アーティストのチ・L・グエン氏を招聘し、日本人アーティストの野村在氏と共に展覧会、トークイベント、そしてワークショップを開催。「西成の5つのアートのスペースの連携」と「ベトナム在住のキュレーターとの協働」を通して、多様な背景をもつ人々が感覚的に会話をできる「多文化的環境における芸術的接点」をつくります。

展覧会：ホーチミンを拠点とするキュレーターのマリー・ダヴィドと協働し、ベトナム人アーティストのチ・L・グエン氏を招聘し、日本人アーティストの野村在氏を招聘した展覧会

トークイベント：アーティストのジョイス・ラム氏を招き、「家族」という身近で普遍的なキーワードを、個人の家庭の物語、家族史の振り返り、そして現代社会における家族の定義まで、紐解くトークイベント

アーティストトーク：キュレーターと作家によるトーク

アートツアー：展覧会会場と地域のアートのスペースを巡る多言語ツアー（日英）

アーカイブ：①ドキュメンテーション、②インタビュー、③批評文をオンラインカタログにまとめ、「西成アートシーンにおける多文化芸術交流」を世界に発信

本事業の成果を展覧会とイベントを通して広く共有し、多文化共生社会における芸術モデルの研究に寄与します。文化芸術はコミュニティを生み出し、そこで育まれた「国境をこえた人々の繋がり」が多文化共生社会を支えます。そして本事業は、同地域において、この新たなコミュニティの萌芽になったと考えています。

■コンセプト・ねらい

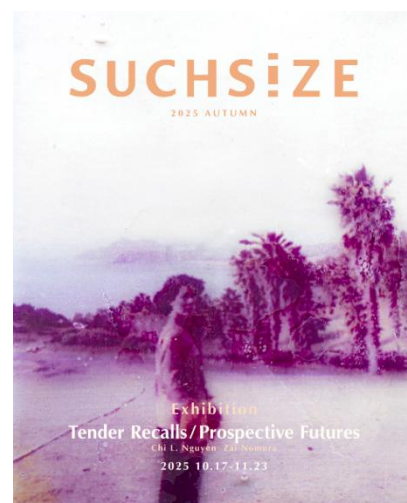
本事業は、アーティストが外国人コミュニティと関係を構築し、展覧会などへの来場へ繋げ「①多文化的環境に芸術的接点をもたらすこと」、そして「②5つのアートのスペースの連携から西成アートシーンの可視化」を目的としています。

さらに数年かけて、芸術交流から相互理解を深め、同区から醸成されつつある「大阪-アジアの新たな文化的アイデンティティ」を明らかにし、「多文化共生社会における芸術活動のモデルケース」になる事を、段階的に計画しています。

■活動実績

《Tender Recalls / Prospective Futures》

この度、SUCHSIZEでは、チ・L・グエン（Chi L. Nguyễn）と野村在（Zai Nomura）を迎え、記憶の共有と継承を探究する展覧会を開催します。本展では、普段交わらないはずの他者の記憶に触れたときに起こる、記憶の想起や認識の変容についての可能性を探ります。



ベトナム人アーティストのグエンは、口承の伝統や工芸との対話を通じて、世代を超えて受け継がれてきた「継承された記憶」を解き明かし、伝承や歴史がいかにアイデンティティを形成するかを考察しています。彼女は、ラisperという透明で脆い素材の上に、家族との記憶や植民地時代の記録を想起させるイラストを描くことを通して、世代を超えた歴史の視覚言語を重ね合わせ、記憶の境界を曖昧にしています。

一方、アメリカを拠点とする野村は、失われゆく記憶の継承に着目したパフォーマティブな彫刻作品を展示します。本作は、わたあめの製造機能をもつ彫刻と、認知症の方が所有する過去の写真が印刷された飴を中心に構成されています。会場を訪れた鑑賞者は、飴を選び、それから制作される「記憶のわたあめ」を食べるという体験を促されます。この行為を通して、鑑賞者を記憶の継承に能動的に参加させ、個人間の隔たりを超えた記憶を共有する輪に誘い込みます。

SUCHSIZE は、これらの他者の記憶や物語に触れる作品を通して、多文化が共生する大阪市西成区の社会構造に語りかける芸術交流を生み出します。無意識的な習慣や認識/記憶が個人の振る舞いを規定し、ひいては社会を形作るといったハビトゥスの概念のように、私たちの記憶の共有と継承は、分断や絶え間ない変化を伴う現代において、社会のコミュニティを結び直す一つの術となり得るのではないのでしょうか。私たちは、芸術作品による記憶の想起を出発点に、あらゆる物事と相互に影響し合った先の未来を想像するために、本展を社会に向けて開きます。

展覧会ウェブサイト(<https://www.suchsize.com/blog/2025/10/08/152355>)

Exhibition

会場①：SUCHSIZE、イチノジュウニのヨン(大阪市西成区山王 1-6-20、1-12-4)

会 期：2025 年 10 月 17 日（金）～11 月 23 日（日祝）のうちの金・土・日曜 13:00～18:00

会場②：MaD0(大阪市西成区山王 2-14-15)

会 期：2025 年 10 月 30 日（木）～11 月 21 日（金）のうちの月～金曜 9:00～18:00

料 金：入場無料

Event

イベント①：ギャラリートツアー

日 時：10 月 18 日（土）16:00～17:30 会 場：SUCHSIZE、イチノジュウニのヨン、cocoroom、MaD0

料 金：無料 ※先着 15 名（予約無）

オープニングレセプション

日 時：同日 18:00～20:00（会 場：SUCHSIZE）

イベント②：「Tracing Memories」Chi L. Nguyễn ワークショップ

日 時：10 月 25 日（土）15:00～16:30 会 場：釜ヶ崎芸術大学（ココルーム）

料 金：参加無料(寄付制) 定 員：10 名（要予約）*10 歳以上、日越逐次通訳あり

通 訳：LÊ VĂN TIẾN（レ・ヴァン・ティエン）

イベント③：Chi L. Nguyễn × Joyce Lam トークイベント

日 時：10 月 26 日（日）16:00～18:00（途中休憩有） 会 場：NPO 法人山王エックス

料 金：入場無料 通訳者：和田太洋 ※先着 15 名椅子席あり（予約不要）、日英逐次通訳あり

イベント④：野村在 トークイベント

日時：11 月 8 日（土）16:00～17:30 会 場：earth 2F

料金：入場無料 ※先着 15 名椅子席あり（予約不要）

主 催：SUCHSIZE 共同キュレーター：Mary Lou DAVID

助 成：大阪市、芳泉文化財団

協 力：イチノジュウニのヨン、MaD0、NPO 法人こえとことばとこころの部屋、earth、NPO 法人山王エックス

ワークショップ協力：NPO 法人日越支援会、サービスハブ西成、

社会福祉法人ストローム福祉会エリザベス・ストローム記念 山王こどもセンター

制 作：株式会社エクラデジュール代表 中山洋平、カンロ株式会社、米子匡司、Yang Jian、ロンキキ

パフォーマンス：田口路弦、霜野 真瑛、安部洋花、毛利あかり

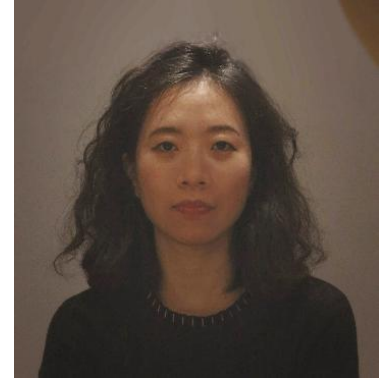
翻訳：Mary Lou DAVID、池田昇太郎、和田太洋

通訳：レ・ヴァン・ティエン、和田太洋(敬称略、順不同)

Chi L. Nguyễn | チ・L・グエン(b. 1992, Hanoi, Vietnam)

ビジュアルアーティスト。キャッスル・カレッジ・ノッティンガムにてBTEC 美術・デザイン課程を修了した後、ロンドン芸術大学キャンバーウェル・カレッジ・オブ・アーツでイラストレーション専攻の学士号を取得。グエンは、ドローイング、ペインティング、インスタレーション、学際的かつリサーチベースのプロジェクトなど、様々なメディアで制作をおこない、矛盾の狭間にある空間と状態、自然・人間・精神性の相互関係、そして家族の物語を探求する。

近年の主な展覧会は、2024 年「Seeing Double」(Spinnerei-Galerie Archiv Massiv、ドイツ、ライプツィヒ)、2023 年「Assemblage: me, my story & I.」(The Dogma Collection、ベトナム、ホーチミン)、2022 年「The Room 2」展 (Vincom Center for Contemporary Arts、ベトナム、ハノイ) などがある。<https://chilnguyen.com/>



artist : Zai Nomura | 野村 在(b. 1979, Kobe, Japan/New York, USA)

野村在は、ロンドン大学ゴールドスミス校にて美術修士号 (MFA) を取得後、武蔵野美術大学にて博士号(美術)を取得。幼少期に経験した障害をもつ近親者の死や1995年の阪神淡路大震災は、物質の永続性や存在の安定性という概念に疑問を抱かせ、その後の創作活動に影響を与えている。

近年の主な展覧会として、第13回ソウル・メディアシティ・ビエンナーレ (ソウル市立美術館、ソウル)、第17回資生堂 art egg (資生堂ギャラリー、東京)、TOKASOPEN SITE 8 (トーキョーアーツ アンドスペース本郷、東京)、888 (ジャパンソサエティギャラリー、ニューヨーク)、あいちトリエンナーレ (岡崎会場、愛知) などがある。2019年から2021年にかけて、文化庁新進芸術家海外研修制度の助成を受け、ニューヨークのISCP (International Studio and Curatorial Program) アーティスト・イン・レジデンスに参加した。<https://www.nomurazai.com/>



■成果・効果

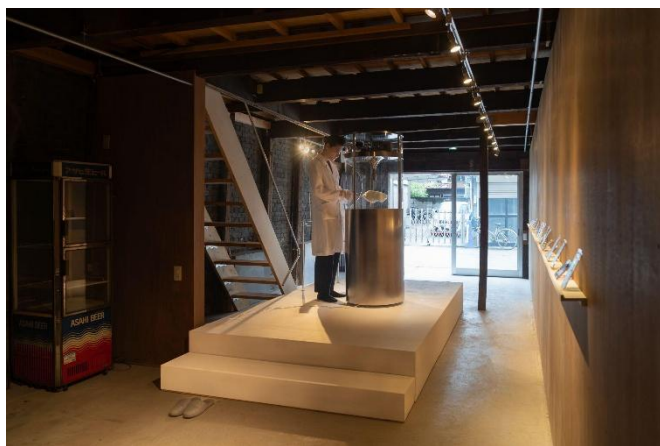
293名の一般来場と、またチ氏の既存のネットワークや、西成区にある日越支援会などの協力による、約30名のベトナムの方々の来場は、成果の一つです。アーティストが約1ヶ月間西成に滞在したことで、来場者だけでなく、地域住民がベトナムに関する会話に触れ、さらに展覧会では言語化されないような感覚的な部分にも触れる機会となりました。また、地域の5箇所のアトスペースと連携してイベントを実施したことで、各スペースが持つ多様な背景を持つ人々(顧客)に対し、芸術を通じた交流の場を創出できたと考えています。

バイリンガルのオンラインカタログを継続的に更新することで、事業成果を世界に向けて発信しています。その効果については、今後より深く考察を深めていく予定です。

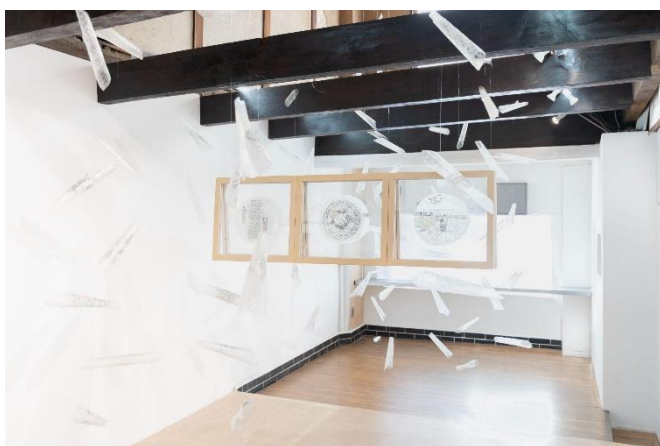
オンラインカタログ：<https://heyzine.com/flip-book/ecb3a8f5bd.html>

注意：オンラインカタログは常にアップデートされますので、上記のリンクが切れた場合は、下記からアクセスしてください。

<https://lit.link/suchsize>



野村在展示風景



チ・L・グエン展示風景



チ・L・グエンワークショップ風景



チ・L・グエンワークショップ展示風景



野村在 トーク風景



チ・L・グエン トーク風景

■今後の展開

西成のアートシーンは、コロナ禍以降に新たなアートスペースが増加し、また大阪関西国際芸術祭の会場の一つになるなど、現在注目を集めています。しかしながら、多くの鑑賞者が「西成にアートシーンがあったこと」自体に驚くという現状もあります。こうした中、天王寺と新今宮の都市開発のスピードに流されることなく、時間をかけて国内外のアーティストと地域コミュニティを結びつけ、地域の文化的多様性を尊重しながら多文化共生を実現することが、極めて重要な課題となっています。

それゆえ本事業は、西成区の外国人居住者の国のアーティストを招聘する本事業は、25年にベトナム、26年に韓国、27年に中国人のアーティストを招くなど、数年の事業を計画しています。文化芸術が様々なコミュニティを生み出し、そのコミュニティ間で重層的かつ多角的に生成されていく「国境をこえた人々の繋がり」こそが、多文化共生社会を下支えするものだと考えます。まずその第一歩として、本事業の継続をとおして、急速に変化する西成の多文化的環境に芸術的接点をもたらし、新たなコミュニティを作ることから始めたいと考えます。